

「対がん10か年総合戦略」及び「がん克服新10か年戦略」

＜対がん10か年総合戦略(昭和59年～平成5年)＞

- (1)重点研究課題の設定
 - ①ヒトがんの発がん遺伝子(オンコジーン)に関する研究
 - ②ウイルスによるヒト発がんの研究
 - ③発がん促進とその抑制に関する研究
 - ④新しい早期診断技術の開発に関する研究
 - ⑤新しい理論による治療法の開発に関する研究
 - ⑥免疫の制御機構及び制御物質に関する研究
- (2)若手研究者の育成、活用を図るための制度(リサーチ・レジデント制度)の整備
- (3)国際共同研究や国際シンポジウムの実施
- (4)外国人研究者受入態勢の整備
- (5)がん研究に必要な質の高い研究資材の安定供給のシステム化(リサーチ・リソースバンク)

＜がん克服10か年戦略(平成6年～平成15年)＞

- (1)重点研究課題の設定
 - ①発がん分子機構に関する研究
 - ②転移・浸潤およびがん細胞の特性に関する研究
 - ③がん体質と免疫に関する研究
 - ④がん予防に関する研究
 - ⑤新しい診断技術の開発に関する研究
 - ⑥新しい治療法の開発に関する研究
 - ⑦がん患者のQOLに関する研究
- (2)若手研究者の育成・活用
- (3)国際協力の推進(欧米諸国に加えて、アジア・太平洋諸国等とのより幅広い国際協力や共同研究を目指す)
- (4)臨床応用研究体制の整備
- (5)社会基盤の整備(広報・普及活動の充実、産学官の協力体制の推進、実験材料供給等の支援体制の整備、先端機器を用いた研究基盤の整備)

成果を踏まえ

第3次対がん10か年総合戦略

(平成16年～25年)

がんの罹患率と死亡率の激減

がん研究からがん対策につなげる

第3次対がん10か年総合戦略

戦略目標：我が国の死亡原因の第一位であるがんについて、研究、予防及び医療を総合的に推進することにより、がんの罹患率と死亡率の激減を目指す。

